

あの日、あの時

第4回 市営プールの思い出

市のさまざまな情報を発信している広報なりた。当時の出来事や取り組みが記された紙面からはその時代のまちの空気が伝わってきます。ここでは、これまでに発行された広報なりたを通して、まちの歩みを振り返ります。



- ①開場日には成田高校水泳部の部員が模範泳法を披露(昭和48年8月1日号)
- ②大谷津運動公園(現なごみの米屋ピーちゃんフィールド大谷津)に水泳プールがオープン(昭和48年7月1日号)
- ③中台運動公園(現重兵衛スポーツフィールド中台)水泳プールは昭和49年に(昭和49年7月15日号)

みんなの広場

市民時望の大谷津運動公園市民プール(市内野間)の開場式が七月十一日に行なわれます。
当日は午後一時二十分から開場式を行ない、そのあと成田高等学校水泳部員による模範泳法を行ないます。同プールは大谷津運動公園の二番目の施設として、昨年十月に着工し、事業費七千万円をかけて、このほど完成したものです。
なお、このプールは模範泳法を披露する成田高校水泳部の部員が、模範泳法を披露する予定です。また、このプールは、模範泳法を披露する成田高校水泳部の部員が、模範泳法を披露する予定です。



市民プール11日オープン —大谷津運動公園に—

②



二番目の市営プールが中台に —8月1日オープン—

③

まぶしい太陽の光、塩素のにおい、飛び交う歓声。夏の風物詩の一つといえ市営プールという人も多いはず。

市内に市営プールが誕生したのは、50年以上前のこと。大谷津運動公園(現なごみの米屋ピーちゃんフィールド大谷津)には50メートルプールと滑り台付きのひょうたん形の徒渉プール、中台運動公園(現重兵衛スポーツフィールド中台)には25メートルプールと滑り台付きの徒渉プール

が整備されました。

当時の利用料金は、大人が2時間で50円、小学生から高校生は2時間で30円。自転車をこいで友達とプールへ向かったあの夏が懐かしい、という人もいるのではないのでしょうか。

かつてプールで遊んだ子どもたちは、今では親や祖父母の世代に。長く親しまれる市営プールは、今年も8月31日まで、多くの人の夏の思い出を作り続けています。

令和8年7月15日号 No.1559



成田市のホームページ
<https://www.city.narita.chiba.jp>

*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

*本紙は7月6日時点の情報を掲載しています。最新情報は各ページの問い合わせ先や市ホームページで確認してください。

編集後記

表紙と8ページに掲載のシニアバスケットボール大会。大会名にある「シニア」から、高齢の選手が多いのかと思っていたところ、実際には40・50代が中心。切れのある動きに、試合をただ観戦するだけではあれば楽しめたのですが、撮影となると話は別でした。屋内という条件下、激しく動く被写体の撮影は、ぶれたり、暗くなったり、シャッターのタイミングが遅れたりと苦戦の連続。そんな中、落ち着いて撮れた数少ない一枚が表紙です。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。